

令和6年度
子ども・子育て支援事業計画に係る支援機関・団体ヒアリング調査結果

項目	内容
調査目的	「第3期山北町子ども・子育て支援事業計画」の策定に向けて、町内の関係機関・団体の活動を通して把握される子どもや保護者の状況や各機関・団体の活動状況、課題等を把握し、計画策定における施策や事業への反映を行うため。
調査対象	町内の子育て支援・児童福祉各機関・団体の代表者及び職員 ・子育てサークル 元気っ子クラブ ・特定非営利活動法人 まみい ・やまきた児童クラブ ・放課後子ども教室 ・子育て支援センター ・主任児童委員
調査方法	「ヒアリング調査」調査票を郵送で配布し、同封の返信用封筒により郵送で回収。
調査期間	令和6年10月～11月
調査カテゴリー ・ 調査項目	▶子ども達の様子について - Q1. 日頃の活動を通じて子どもの様子で気になっていること - Q2. 子ども達に関わる際に大切にしていること - Q3. 子ども達と関わる中で特に難しかったこと ▶家庭や保護者の様子について - Q4. 保護者の意識や考え方で、変化していると感じること - Q5. 利用者が抱える問題や困っていると感じること - Q6. 子どもが健やかに育つために必要な支援について ▶関係機関・団体との連携について - Q7. 現在、連携している機関 - Q8. 活動の中で、繋いでいる支援機関や支援制度について - Q9. 他機関・団体や町との連携における課題 ▶活動している中での課題について - Q10. 活動する中での課題や困っていること ▶町や地域に望むことについて - Q11. 足りていないと感じる社会資源や取り組み - Q12. 町に支援・充実してほしいこと ▶自由意見

○子ども達の様子について

問1 山北町の子ども達の現状や取り巻く環境などから感じていること、日ごろの活動を通じて子ども達の様子で気になっている点がありますか。

○ひとりひとりと接しているととても良い子ですがやはり、集団になると当然ですが課題も増えてくる現状（遊びのトラブルなど）。特に3～4人、友達なのに1人の子を責めるなど思いやり、やさしい心と不足しているような感じが見受けられます。（全員ではないが…）

○山北町に限ったことではないが少子高齢化のながれにのまれてこのままでは山北町から子どもがいなくなってしまうのではないかと感じるほどです。その上共働き、核家族が増えていると感じています。そのことから子、両親ともども時間の余裕、ゆとりがなく、家庭での過ごし方が変わってきている。

○集合住宅に住んでいて、遊べる友達が近くにいる子は良いが、そうでない地域に住んでいて、近くに遊べる友達がいない、少ないという環境の中にいる子がいるという事。上記の環境の中にいる子に対して、週一日だが“放課後子ども教室”のような場があることは良いと思う。

活動を見守る中で、いじめの場面等に遭遇することがあるが、学年が上がるごとに酷くなっていることが気になる。

○出生数が年々減少している上に、働く母親は増加しているため、早くから子どもを保育園（こども園）に預けるので、支援センターの利用期間が生後から入園までの数カ月となることが多いのがここ数年の現状です。本来、母親が働く必要のない幼稚園希望の家庭が、幼稚園児童数があまりにも少ないこと、また、平日の遊び相手がいらないこと等の理由で保育園に入れるという実態もあります。同年代の子供同士が意識し合い、刺激し合い遊ぶことができなくなってきていると思います。言葉の遅い子どもが多いのも気になります。

○遊び相手が少ないので子ども同士で遊んで経験したり学んだりする機会が少ないのではないかと気になる。

○子どもの数が減ったのでお互いに遊び相手を選べない状況となっていていつも同じ子と遊んでいます。小さなコミュニティになりすぎていると感じています。

○夏が暑すぎて乳幼児は戸外に出られません。一年を通して外遊びが足りていない子が多く、体力のなさが目立っています。特に歩くことが苦手です。

○言葉など発達の遅れを感じる子どもの割合が多いです。おむつ外しの時期も以前に比べて総体的に遅くなっていますが、それを気にしない母親が増えてきました。

○子どもが少ないこと。公園へ行っても遊んでいる子どもがいらない。来年入園する子が何人い

るのかなど心配している。

○民生委員主任児童委員として2年目になりますが、直接保護者や子ども達と関わる事がほとんどありません。これは直接関わらないように言われているからです。そこでわかる範囲で記述していきたいと思います。山北町は子育て世帯に対しての様々な支援があり、大変子育てしやすいとよく聞きます。子ども達（小学生）はとても素直です。

○山北町の現状として、顕著な少子高齢化が進んでいることが挙げられる。その事から、町全体をみると、老人多数の中に少数の子ども達の存在がある。子育て世代が少ない、当然、子どもの数が少ない。子どもの数が少ないため近隣に子ども達がいらない環境となる。子ども達の姿や声が聞こえてこない。

問2 子ども達と関わる際に、大切にしていることはどのようなことですか。

○保護者、お迎えの時、笑顔で“さようなら”が言えるよう（泣きながら帰さない）安全で安心な居場所にする事を心がける。

○子ども達を保護者も含め理解する！理解してから支援ができる！と思っています。（大人の考えを押し付けないことが大切）

○まずは、お預かりしている以上安全な預かり、そのうえでお子さまも保護者も安心できること。

○先ず、子どもの思い気持ちに寄り添うこと。
良い事、悪い事に対して、自らきづけるように導くこと。

○子育て支援センターは、対子どもというより母親支援の場なので、来所された母親（保護者）に必要なと思うことを支援します。
母親が、子どもとゆとりある気持ちで向き合えるようにするにはどうすれば良いのかを第一に考え、子どもたちと関わっていきます。

○支援センターは親子で利用する場所なので、親子に寄り添い話をよく聞き相談や悩みを一緒に考える。また、子どもと接する時は遊びながら様子をよく見る。

○子ども達に直接指導している保育園等とは異なり、子育て支援センターでは“子育て支援は母親支援”をモットーに、母親をベースにその育児の仕方を尊重しながら寄り添う形をとっています。日々子どもと遊んだり、おんぶやだっこをしてお世話もしますが、そうすることで母親に、ひとりで頑張らなくてもいいんだ、助けてもらっていいんだ、と感じてもらいたいと思っています。保育や療育の場ではありませんが、プログラムもなく自由に母子にとって居ごこちのより雰囲気的大事にしています。黒子のように寄り添い母子が楽しく過ごせる

よう見守っていきたいです。

○この仕事に就いた時、子育て支援は母親支援と教わりました。子どもが健やかに成長していくには、ママが元気で健康でなければと思う。ママ以外の人との関わりも大切だと思うし、一日中抱っこして疲れているママがほんのちょっと息が抜けるようにと思っています。

○なるべく子どもの考えを尊重しています。いろいろな行動にはその理由があるのでなるべくそれを見極めていこうと思っています。

○道路等で出会った時にはあいさつを心掛けている。

問3 子ども達と関わる中で、特に難しかったことはどのようなことですか。

○特に支援級のお子さん、学童になれるまでクラスに入れない、おやつを他の子と食べない、お迎えが遅い場合とても不安になってしまう、ことなど、特に障害理解、研修が必要だと思っています。

○現状ですが、支援員を独占する子どもが多い。

○保護者との意思疎通。

○やはり、家庭環境が子どもに対して影響が大きいので、全てを把握しきれずに対応すること（個人情報なので、全てを知ることが難しい）。

○私たちと子ども達との関わり方が、その母親にとって良いのかどうか考えてしまう時があります。支援センターは保育の場でも療育の場でもないで、子どもの相手はしますが、預かりや指導的なことはしません。しかし、“今日どうして支援センターに来たのか” その理由によっては母親だけではなく、子ども中心に寄り添わなければならない時もあります。子どもへの関わり方で、支援センターに求められることを、私たちに対応しきれない時に、難しさを感じます。また、発達に心配のある子に対する関わり方も、ここは療育ではないため、その子の特性を理解しつつ、他の子ども達とも平等に接していかなければならない時が難しいと思います。

○どの子どもとも平等に接すること。（一人の子どもばかりの様子見や遊び相手をしないようにする事）

○保育や療育のように直接子ども達を指導していないので、この問に答えるのは難しいですが、この仕事の中では、相談を受けることが多いので、その傾聴の難しさを感じています。素人であることを生かし母親が相談することへのハードルを下げ、雑談の中から母親（父親）の困り事を丁寧に聞くよう心がけていますが、“ああ今日もうまく対応することができ

なかった。”と反省することが多いです。

○難しいと思った時も同僚に相談して、決して一人ではないと思いました。

○いろいろな家庭環境で育っている所以一人ひとりに応じた対応をしなくてはならないところ
です。川村小学校で週2日勤務していますが、人数が少ない割には、いろいろな特性をもっ
た子ども達が在籍しています。

○親世代の価値観が変わってきていて、子育ての方向性なども異なっているように思われる。

○家庭や保護者の様子について

問4 親同士の繋がりや保護者の意識・考え方などについて、以前と比べて変化していると感じ
ることはどのようなことですか。

○ほとんどSNS上の繋がりになっている。

○生活していくなかでやむを得ずかもしれませんが、仕事優先の所が少し感じられる…ような
気がします。保護者の方とても頑張っていると思いますが時間的にもう少し余裕があっても
良いのではないかと感じられます。

○共働き世帯が多いなか、親同士の繋がりには少なくなっている。例えば、支援センター等を利用
している保護者などは顔見知りになり他との繋がりから相談や色々な考えを吸収できてい
たが、自分の家庭の中だけで考え、色々な選択肢を持てていないと感じる。

○友達感覚が強く、仲の良い親の子への言葉遣いなど、躰という面が欠けていると思う。以前
は、自分の子でなくても悪いことに対して声をかけられたが、今は難しい。

○支援センターに於いては、保護者同士の付き合いがその場限りになっている気がします。来
所者数の減少もあり、ママ友作りも思うようにいかず、母親同士の情報交換等もなかなかで
きないのかなと思います。また、SNS普及により外に出てママ友を作らなくても、子ども
と家に籠ることができてしまうようです。子育ての情報もネット検索で容易にできてしま
います。ただ、ネットでの情報は、決して正しいものではなく、それを鵜呑みにしてしまうこ
とは怖いことだと思います。時代は変わっても、人間は変わらないのですから、少数ではあ
りますが、先輩ママや子育て中のママとたくさん話して欲しいです。

○支援センターや子育てサークルの時は親しくしているが個人的な繋がりには少ない感じがす
る。

○親同士の繋がりにはあまり変わっていないが人数が少ないので相手を選べていないと感じてい
ます。保護者の意識や考え方は人それぞれ個人差が大きいです。以前と比べて変化したこと

は、働くママが増えたことですが、働く理由も人それぞれで、経済的なことだけではないと思います。幼稚園を希望する人が少なすぎて集団としてはどうかな？と考え、やむを得ず保育園やこども園を選んでいる方もいます。保育施設の選択肢は少ないが迷っている方の割合が多いと感じています。

○幼稚園入園前の幼児期の間一緒に過ごすことが多く、年月を重ね深い繋がりができ子どもが大きくなってもその関係は続いていて、たまに来所した方が仲良しだった人の近況も教えてくれる。近頃は1歳過ぎると保育園へ行き、仕事もして忙しく繋がりは薄くなっているような気がする。

○こども園の保護者から聞いた話ですが、除草作業に参加する保護者の数が大変少ないそうです。ボランティアだと出なくても良いという考え方の人が多くなっているようです。一方、小学校のアルミ缶やキャップ回収には進んで協力してくれます。直接自分の子どもに関わることは一生懸命取り組んでくれるようです。

○近隣に同世代の家族がある場合はよいのですが、そうでない場合は学校への連絡帳などのお願いができない事態がある。

○近隣に子どもがいない場合に子ども同士を遊ばせることができない。そのような親同士がグループなどのつながりを作ろうとしている様子がみられる。

○子育てに困ったことなどは、すぐにネットを頼ろうとしている様子がある。

問5 利用者が抱える問題や困っていると感じることはありますか。

○お仕事されている中であまり多くはありませんが、急にお迎え時間に間に合わない時など困っている方もいらっしゃる。

○ひとり親家庭も少なくなく、子どもと関わる時間や経済的にも問題があると感じる。

○時間に対してルーズなところ

○ちょっとした時に子どもを預けられる場所が欲しいという話はよく聞きます。こども園の一時預かりやファミリーサポートセンターは、急な預かりに対応してもらえず、時には事前でも断られしまうこともあると聞いた事があります。実家が遠方だったり、近くであっても祖父母が現役で働いている等、子どもの預け先に困っているようです。また、保育園利用の方が、病時病後の預かりで困っているとよく言います。病後に保育園を休み、支援センターに来てしまう人もいます。働けない…と言っていました。

若い世帯の人達は、住みにくさを訴えています。近所に子どもがいない、交通の便が悪い、買い物不便等、特に子どもが少ないことは、かなり深刻な問題となっていて、そのために

町外へ転居する人も少なくありません。それから、小中学校の母親からは、学力低下についての相談が度々あります。

○町の過疎化が進んでいるので、交通の便や今住んでいる場所に不便を感じ引越しを考える人が増えている。

○困った時、頼れる親族がいなかったり、いても頼れない時どうしたら良いか悩む人がいます。

○最近、子どもが中学生の母親から「定期テストの結果が悪く困っている。」という相談を複数受けました。学習障害かなと思うところもあり心配しています。

○山北のおじいちゃん、おばあちゃんは、いつもよくお孫さんの面倒をみていらっしゃると感心しています。それでも義父母との同居、近居は気をつかいますと言われる母親は多いです。世代間ギャップを感じるようです。

○ひとりはなんとか育てられた方でも、ふたり以上になるととても大変そうです。特に上の子どもの赤ちゃん返りに四苦八苦しています。センターでもどちらかの子どもをスタッフがつきっきりでみている場合が多いです。

○嫁姑問題、別居を考えていても町内には物件がほとんどなく探しようがない。

○子どもが病気で数日仕事を休んでいて仕事に出たいが、病後、子どもを預ける所がなく困ってしまう。

○核家族化している時代、相談相手がない中で頼りにしているのが、ネットなどの情報に頼っている傾向がある。

問6 家庭において安心して子育てができ、子どもが健やかに育つための環境や支援に必要なことはどんなことだと考えていますか

○学童ももちろんですが、少子化が進むなか大人ができることを子どもに伝えていく（物づくりとか…）、家庭に繋がると思います。

○心と体のゆとりある環境が必要だと思います。それを補うサポートが必要。

○相談のしやすい機関。
近所づきあい

○母親（保護者）の不安や悩みを取り除くこと。

家事・育児・仕事・経済・人間関係等それらをいつでも話せる場所が必要だと思います。子どもが健やかに育つためには、保育者が健全でなければ難しい。よく話を聞いて、抱える悩みを解決していくことが大事なのではと思います。

支援センターでは、子どもの入園に関する不安が上がっています。年々減少する子どもですが、他の市町に劣らない教育を行うことが必要ではないかと思います。プレ保育や体験入園などもあれば子どもの教育をしっかり考える一歩として有効ではないかと思います。

○プレ保育や一時預かりなど利用できる場所を増やすこと。親と子どもが離れることでお互いリフレッシュできるし、子どもは親以外の大人や他の子と接して学べることが多いのではないかと思う。

○母親自身が具合が悪くても子どもを預けられるところがないと病院にも行けず我慢してしまうケースがあります。「支援センターで数時間でもいいから預かってくれるといいのになあ。」という声をよく聞きます。預けられる場所が複数あればもっと安心して子育てができると思います。

○移住者が来てくれる事だけではなく、来てくれた後の支援が大切だと思う。身寄りや知り合いもない所へ引越して来てくれたのに、預かってもらえる所がない、頼れる所がないというのはとても不安だと思う。

○最近は核家族が多く子育て等の悩みを話せない方もいられるかと思いますが、子育て支援センターで子どもを遊ばせてくれたり、相談にのってくれたりしているので、支援センターの役割はとても大きいと思います。また、「ぴよぴよ教室」「ブックスタート」もとても良いですね。ただ町内でも遠くの人には車がないと来れないですね。また、公園がいろいろなところで整備されて小さい子どもを遊ばせるのにとっても良いです。

山北は子育てをするのにとっても良いところだと思いますが、問題を抱えていても表面化しない家庭の支援をどうするか考えていかなければならないと思います。

○地域の安全安心な環境、防犯が確保されること。

○関係機関・団体との連携について

問7 現在、連携している機関はどこですか

例) 教育委員会、小中学校、幼稚園・保育園・こども園、役場、児童相談所、社会福祉協議会、民生児童委員、医療機関、警察、フリースクールなどの民間団体

○小学校、役場、警察、放課後デイサービス、NPO法人まみい

○役場、民間団体、あすぼ

○教育委員会、小学校、学童保育

○主としては、役場、まみい、民生児童委員、他市町の子育て支援センター。場合により、小学校、幼稚園、保育園、こども園。他は会議への参加による連携。

○役場福祉課、健康づくり班（保健師、栄養士、助産師など）

○会議の関係機関

○教育委員会（放課後子ども教室の見学をさせていただきました。）、役場（福祉課、保険健康課）

○民生児童委員

問8 支援活動をする中で、具体的につなぐ支援機関や紹介・活用する支援制度はどのようなものですか

○町の保健師の方、学校のスクールカウンセラーの方に定期的に来て欲しい。

○家庭などの情報をできる範囲内で良いので流して欲しい。

○役場、支援センター

○委員会に委ねる事案かと

○他市町の子育て支援センターについては全て利用できることを利用者へは口頭で案内します。

○預かり希望の人には、ファミリーサポートやまきたやこども園の一時預かりを紹介します。

○発達に心配のある子どもについては、こちらでは直接的に話さず、保健師と連携を取りながら保護者からの相談を勧め、必要に応じて親子教室への参加へとつなぎます。

○ファミリーサポートセンター利用を勧める時もある。

○直接支援活動はしていませんが、福祉課、保険健康課の担当の方にお話しさせていただいています。

○子育て支援センターは頼りになる場である。他市町の子育て世代にも利用されている様子がみられる。支援センターには貸出しの用具があったり、古着も利用できる。とてもありがたい。また、ベテランの子育ての先輩方がいられて、子育て中の親の相談に耳を傾けてもらっ

ている。

問9 他機関・団体や町（教育や福祉等）との連携における課題はありますか。

○学校、こども教育課、福祉課、情報交換の機会をつくって欲しい。

○明日葉に委託されているとは思いますが、年に何回かは学童に見学に来て欲しい。子ども達の様子を見て一緒に遊んで欲しい。役場の方、地域の方。

○町からの情報を共有できていない。特に養育支援家庭。

○委員会に委ねる事案かと

○幼稚園、保育園、こども園など直接連携すべきか迷う時があります。

○親子に関することで幼稚園（無認可も含め）、保育園と連携したいと感じる時がある。

○主任児童委員として「ぴよぴよ教室」に参加してお母さんや赤ちゃんの様子をみることができ、とても参考になっています。しかし、他町では赤ちゃん訪問に主任児童委員も一緒に行っているところがあります。山北町でもできれば赤ちゃん訪問に一緒に行かせていただきたいと思います。

○山北町は他市町に比べると問題を抱える家庭や個人が少ないと考える（絶対数）。従って、児童相談所等にかかる件数も少ない。

○活動している中での課題について

問10 支援活動をする中で、支障となる課題や困っている点はどのようなことですか。

○子どものロッカー、ランドセル、おけいこバック、意外に持ち物が多いのでロッカーを充実して欲しい。

体育館、グラウンドお借りしていますがプレイルームを造ってほしい。（卓球台など置きたい。読書コーナーなども設けたい。）

毎日、来所数が60～70名と多いので（曜日によって80名）、安全面も考えて学校と同じ施設では工夫しなければならない点が多々あることからお願いしたいです。

最終的には学童独立した施設を建てて欲しい。学校敷地内が好ましい（下校後、来所するのに安心なので）。

○町からの情報を共有できていない。ファミリーサポートとしての情報提供を今まであまりして来なかったこともあり、ファミリーサポート自体が知られていない、反省。

○暑い時、体育館に冷房がなく、熱中症の症状の子がいた。（今の体育館は構造上、設置はで

きないと思うが、この先、夏は今以上に暑くなってくると思うので、必要かと)

○一番困っていることは、子どもが少なく今後も減少していくであろうことです。若い世帯が町外へ出てしまうことが大きな問題ではないでしょうか。また、支援センターは出向くことができず来所してもらっての支援活動をする所です。免許がない、車がないために出られずにいる人や、子どもと一緒に外に出ることが億劫になっている人と繋がる手段を探しています。

○普段2人体制なので手が回らないときがあります。

○支援センターを利用したいと思っても交通手段がない。

○主任児童委員の役割（活動）が市町村によって異なっていて、山北町ではどう活動していったらよいか模索中です。

○民生児童委員、特に主任児童委員は、要支援対策協議会等に参加しているが、名前の挙がっている家庭はもちろん、子ども達の顔なども知らないのが現状。支援のしようがない。地区の民生委員の方から情報が入っても介入することはできない。そのため、民生委員の方から不信感を持たれてしまうこともある。

○町や地域に望むことについて

問 11 町の中で足りないと感じる社会資源や取り組みはありますか。

○社会制度として資源はあるものの、インフォーマルな社会資源の充実にはほど遠いと思っています。様々な家庭に寄り添ったサービスや取り組みはまだまだ足りていないと思う。

○インフォーマルな社会資源に対して、例えば1年に1回だけ、町から助成などが出ると良いと思う。(利用した場合、自己申告による。)

○若い世帯が町外へ転出する理由の一つとして、持ち家の問題があります。空き家を探している人は多いです。

○昨年頃から、元気っ子サークルの役員さんが、幼・保・こども園の入園前見学会を企画し、直接申し込み予約をして見学を行っています。サークルに入らない人は知らない活動です。これは町で行ってよいのではと思いました。

○山北町は自然豊かな町です。それを活かし、子どもがいつでも誰でものびのびと遊べる施設があってもよいのではと思います。

○一時預かりやファミリーサポートセンターがもっと周知されれば利用は増えると思います。

松田町では、ファミリーサポートセンターは月に5時間ぐらい無料だと聞いています。利用のきっかけになるよう無料でおためしができると良いと思います。

○幼稚園に入園する前にプレ幼稚園がある良いと思います。

○空き家らしい所があるが、活用されてないこと。

○山北町では子育て支援が充実しているので住みたいと思っている人がいますが、残念なことに住みところがないので他地域に住むことにした、という話を聞きます。サンライズのような町営住宅がされにできると良いですね。

○交通の利便性が少ない。

○買い物する店が少ない。

問 12 町に支援・充実してほしいことはどのようなことですか。

○極度に子どもが少なく出世率も少ない、ちいさな町だからことできる個々の家庭に寄り添った、支援が必要であると思います。

○ファミリーサポートセンターを活用して欲しいと思う人がいますが、専業主婦という立場で、有料で子どもを預けることに抵抗があると言われました。利用補助などがあるといいのかなと思います。

○出産後、ほとんど外出せず過ごしている母子が心配です、孤立に気づかない、訪問を充実して欲しいと思います。保健師さんでも民生委員さんでもよいと思います。

○ママ達からの声は、「ファミリーサポートセンターをもっと使いやすくして欲しい。」「他町でやっているおためし預かりや料金の兄弟割引などして欲しい。」という意見があります。

○最近になり、支援センター内で毎日のようにスマートフォンを使って家探しをしている方が数名います。空き家・中古・新築とそれぞれですが、やはり皆、駅近の物件を探しています。町内にもっと子育て世代が住めそうな物件があると良いと思います。

○ファミリーサポートセンターの利用のしやすさ。料金の補助。

○入園前に幼稚園の様子を知るために、2歳児のプレ幼稚園があるといいと思う。

○山北地区に買い物のできるスーパーなどがないので、子どもが一人で“おつかい”に行くと

いう経験が少ないと思う。

○子ども食堂があると良いと思う。(NPOやボランティアによるものではあるが)

○この所、自宅近くが開発されて移住されてきている家庭が増えている。住み易いと魅力ある町にするにはどうすればよいのか、住民からの意見を聞くのはどうか。

○山北町に住んでいると、こんな良いことがあるという何かが欲しい。例えば、子育て家庭に紙オムツが支給される期間が長くなったりするなど。

○自由意見

記入欄

○保護者の皆さんが少しでも子どもと一緒にすごせる時間が増えますように、支援をお願い致します。

学童において、支援員も子どものことを考えて色々工夫して対応してくれています。明日葉に委託されているからだと思いますが、もう少し学童に来て、支援員にも声をかけて欲しいです。

子どもの様子も実際に見ていただきたいです。(議員の方、役場、地域の方など)

○出生数の減少、早期の保育園入園等、子育て支援センターの町内利用が減少していくことはやむを得ないと思います。それでも、毎日のように来所される母子もいて、来られた時には疲れた表情だったり、イライラした様子でも、退所時は穏やかな笑顔で帰って行かれると私たちはとても安心します。そして、もうとっくに子育て支援センターを卒業している母親も「リサイクル品」というアイテムを持って訪れては、大きく成長した子どもたちの話をしていけます。「リサイクル品」の持ち込みは話に来るためのきっかけなのでしょう。ほとんどの方が「まだ、みなさんここにいてくださったんですね。よかった。」と言って、もう大きくなった子どもの相談をしていく人もいます。長い支援だなと思います。

また、子どもたちも健康福祉センターに来たついでにと、わざわざ子育て支援センターをのぞきにやって来て、窓越しに話してくれます。中には、家庭内のことをボソッとこぼしていく子もいます。ちょっとドキッとします。少数ながらもこんな風に毎日必ず私たちの胸の中に足跡をつけに来てくれます。足跡をつけに来るということは、話をしに来ることと私たちは捉えています。良いことも悪いことも。私たちは今後も、その足跡を消すことはなく、受け止めていこうと思います。ここは、いつでも安心して訪れることのできる場所でありたいです。

○こども園、保育園に必ずといっていいほど入れるようになり働くママが増えています。町の過疎化や少子化が進み出生数もすごく少なくなっています。そのため、支援センター利用者も少なくなっていることを考えると、今後どういう感じにしていくなかで悩みます。

ママ達(町外も含め)からは「山北支援センターは、子どもを遊ばせるだけのセンターでは

なく、アドバイザーが親の話をよく聞いてくれたり、時には子どもと遊んでくれたりしてくれるので居心地が良い。」と言ってくれます。そんな話からママ達の話聞いてあげたり、時には子どもと遊んであげることでリフレッシュすることが必要だと思います。これからも居心地の良い支援センターでいたいと思います。

○この機会に山北町子育て支援センターの特徴について改めて考えてみました。環境もよく広さも充分。床暖房等その設備に関しては町外の方から「すごいですね。」と言われることが多い自慢の施設です。子ども達は自由に駆け回り元気に遊んでいます。ランチタイムではママ達が楽しそうにおしゃべりしています。その居心地の良さから毎日のように通っている親子もいます。通算で1300回ぐらい来所しています。開所日が年250日とすると約5年分です。「まるで別宅みたいだね。」と笑いながら話しています。

リサイクルも自慢の一つです。衣服をはじめ玩具、赤ちゃんグッズ等その種類と数がとても多いので初めて来られる方がびっくりされます。大型リサイクルも扱っていてチャイルドシート、ベビーカー、ベビーベッドやベビーバスなどは利用者にとっても喜ばれます。ただし、リサイクル店ではないのでホームページで宣伝するようなことはありません。オープン当時から口コミで広がり現在に至っています。多分、県内、いや全国の子育て支援センターで類をみない品揃えだと思います。借りに来られる方は幅広く、山北のおじいちゃん、おばあちゃんが孫用のチャイルドシートを、他町の保健師さんが特定妊婦さんのためのベビーカーをなど様々です。コロナ禍で閉所されていた時期は、町内のママ達は自宅で不要になったリサイクル品を両手に抱えて来所していました。日替わりのようにママが来られるので閉所していても来所者がゼロになる日は少なかったです。小一時間話すと、皆すっかりした顔で帰られていました。手ぶらで話に来るのは恥ずかしいけれど、リサイクルを持ってくれば来やすかったのだと思います。妊娠期から就学前を超えて子どもが小学生になっても中学生になってもリサイクル品をもって相談にくるママがいます。リサイクルを通してフィンランドのネウボラを実践していると思います。そしてこれらの循環を山北町のSDGsの一環のように感じています。

支援センターに来られるママ達のなかにもアンケートが嫌いな方がいらっしやいます。本当のニーズが見えづらいです。町でニーズを丁寧に拾っていただけるとお聞きしています。よろしくお願いいたします。

縁もゆかりもない山北町で働き始めてから15年目。この町の方の優しさにとっても感謝しております。自分でも不思議なくらい愛着があります。自分も微力ながら頑張りたいです。より子育てのしやすい町となりますよう願っています。

○子どもが少ないが、支援センターを知らない人はいないというくらい利用してもらいたい。